

国際会議出席報告

—2008 年度後期若手研究者海外学会出席助成—

米国土壌学会・農学会・作物学会に参加して

肥後昌男

(日本大学大学院生物資源科学研究科)

この度、アメリカ合衆国、テキサス州ヒューストンの George R. Brown コンベンションセンターで開催された 2008 年度米国土壌学会・農学会・作物学会で発表する機会を得ることができましたので、その報告をさせていただきます。

10 月 4 日の日本時間 15 時過ぎに成田国際空港を発ち、飛行時間は約 12 時間、アメリカ時間、10 月 4 日の 13 時過ぎにヒューストン、George Bush Intercontinental 空港に到着しました。時差が -15 時間と、時差ボケがかなり厳しいものでした。

ヒューストンは、港都市ガルベトンからおよそ 30 マイル (約 48 キロ) 内陸に入った、テキサス州東海岸に位置しています。ヒューストンは、ニューオーリンズ (ルイジアナ州) から西へ 350 マイル (約 563 キロ)、メキシコ国境から北東へ 300 マイル (約 480 キロ) です。ヒューストンはテキサスの主要科学技術、ビジネス、商業の中心地でもあることが知られています。ヒューストンは NASA やプロスポーツでも有名ですが、ハリケーン Ike の被害の傷跡が残る感じがダウントウンを歩いていて感じました。学会中は、

一度だけ激しいサンダーストームに遭遇しましたが、それ以外は、非常に暑く、日本から来たのを考えると少し過ごしにくい気候でした。

本ジョイント・ミーティングは、今回は特別に米国地質学会も加わり、米国土壌学会・農学会・作物学会の 4 学会で行われて、総参加者数が約 10000 人というかなり大きなミーティングとなりました。私は初日となる 10 月 5 日から参加し、今回自分の専門分野と類似した微生物の多様性やその多様性に及ぼす作物生態、栽培管理といった関係を中心とした話を聞くことができました。それらの最新の研究に関する知識が乏しい自分にはとても勉強になり、今後幅広くそれらの研究と結びつけていくことが重要になると身にしみて感じました。

ポスター経験の少ない私にとってポスターセッションは非常に緊張するものでした。ポスターセッションは 6~8 日の 3 日間にかけて行われ、発表時間が 2 時間とかなり長時間でありました。今回、自分の分野の研究があまりなかったことが少し残念であり、また、納得の行くようなコミュニケーションや議論をすることが出来ず、これから頑張らなければいけない課題が多数見付き非常に有意義な会議でありました。今回のような発表機会が持てるよう、今後も日々精進していきたいと思えます。